

市町村名	本部町						
平成 2 7 年度 (繰越) 沖縄振興特別推進交付金事業 (市町村分) 検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑤		伝統興行観光化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第5章-1-(1)	
担当部課名	企画政策課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	自然、歴史、伝統、文化などの固有の特性を生かした個性豊かな地域づくり Ⅲ-1-(1)	
事業内容	沖縄の伝統興行である「闘牛」や「闘山羊」を後世へ継承していくために、ナイター闘牛や闘山羊大会を定期開催することで伝統興行の活性化を図る。また、闘牛舎及び付帯設備を整備することで闘牛文化継承者の負担を軽減し、伝統興行の継承に寄与する。						
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度
		(b) 予算現額	26,500	5,535	5,010	-	
		(c) 増減額 (b-a)	26,499	25,655	54,293	-	
		(d) 繰越額	▲ 1	20,120	49,283	-	
		A. 計 (b+d)	0	0	0	31,760	
	B. 執行済額	うち交付金充当額	26,499	25,655	54,293	31,760	
		次年度繰越額	19,503	14,616	21,353	31,750	
		執行率 (%) (B/A)	15,602	11,692	17,082	25,400	
		執行率 (%) (B/A)	0	0	31,760	0	
	予算の状況の説明	当初イベント実施のみを予定していたが、闘牛文化の後継者育成のために闘牛舎建設経費(建築費・工事管理費・調査測量費)として49,283千円を増額措置した。不用額については、イベント開催における委託料の精算や入札残による不要額となっている。 闘牛舎建設工事で基礎工法の再検討に時間を要したことから、31,760千円をH28年度に繰越した。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	伝統興行の実施:3回	目標	25年度	26年度	27年度	28年度	
		実績	(3回)	(3回)	(3回)	()	
	・闘牛舎及び付帯設備(し尿攪拌庫、堆肥舎)の建設	目標	3回	3回	3回		
		実績	()	()	(闘牛舎及び付帯設備建築)	()	
	達成状況説明	本部闘牛組合、瀬底島ピージャーオーラサイ保存会の共同開催により、本部町の伝統文化を広く提供するイベントとして「もとぶ観光文化フェスタ」を3回開催することができた。 また、闘牛後継者育成のために、闘牛舎を及び付帯施設を整備することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値(年度)	25年度	26年度	27年度	目標値(年度)
	・伝統興行の実施による観客数(1377名)	目標	()	(1500人)	(900名)	(1377名)	()
		実績		1270人	1377名	981名	
	・闘牛舎及び付帯設備(し尿攪拌庫、堆肥舎)建設工事の完了	目標	()	()	()	(完了)	()
		実績				完了	
	進捗状況説明	伝統興行の実施については、雨天等の影響があり観客数目標の1377名には届かなかった。 また、闘牛舎及び付帯施設に関しては整備することができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化) - 雨天時は客数の減少が生じており、さらに前売りチケットの払い戻し対応等が生じた。荒天時でも開催できる受入体制の整備が課題である。 - イベントを開催している本部町多目的イベント広場(闘牛所)にトイレが整備されておらず、事業実施上大きな課題となっている。また、降雨対策は個々の観客任せとなっており、観客及び関係者から改善を求める強い要望があった。 - イベントの周知に関して、町内ホテルへ宿泊している方への周知が不足している。	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点) - 観客の快適性の向上や運営の効率化のため、イベント開催場所の環境を改善していく必要がある。 - 周知に関しては、観光協会を中心に町内外へ情報を発信し集客数の増加を図っていく必要がある。
	今後の取り組み方針 - イベント会場の環境整備に関して、トイレを早急に整備する必要がある。また、悪天候時でも対応できる全天候型の施設を整備する必要があるが、より安価で耐久性のある方法を検討していく。 - イベントの周知に関しては、県内紙面で広告を行うとともに、インターネット(SNS等)を活用し、町内外へPRしていく。	

資金の流れ
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
53,103	53,103	42,482	10,621	0

```

graph LR
    A[本部町  
53,103千円] --> B[委託料  
4,456千円]
    A --> C[工事請負費  
46,416千円]
    A --> D[事務費  
2,231千円]
    
    B --> E[本部闘牛組合  
1,588千円]
    B --> F[瀬底島ピージャーオーラ  
サイ保存会  
600千円]
    B --> G[UNE建築設計室  
2,268千円]
    
    C --> H[有限会社 石川土建興業  
46,416千円]
    
    D --- I["消耗品費、役務費"]
    
    E --- J["伝統興行観光化事業  
（伝統興行イベントの実施）"]
    F --- K["伝統興行観光化事業  
（伝統興行イベントの実施）"]
    G --- L["闘牛舎新築工事監理業務"]
    H --- M["闘牛舎建設工事"]
  
```

The flowchart illustrates the distribution of funds from Hama City (53,103 thousand yen) to various entities. The funds are categorized into three main areas: Commission Fees (4,456 thousand yen), Construction Fees (46,416 thousand yen), and Office Expenses (2,231 thousand yen). The Commission Fees are further divided into payments to the Hamabuchi Bullfighting Association (1,588 thousand yen), the Setasima Peijer Oora Sai Preservation Society (600 thousand yen), and UNE Architectural Design Room (2,268 thousand yen). The Construction Fees are paid to Ishikawa Tensei Co., Ltd. (46,416 thousand yen). The Office Expenses include consumables and services.

市町村名	本部町						
平成27年度（繰越）沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑦	伝統興行観光化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(6)-(ア)		
担当部課名	建設課	事業実施（予定）年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	沖縄らしい風景づくり		
					Ⅲ-1-(1)		
事業内容	本部町の北部地域は、フクギ並木などで有名な観光名所である。今後の観光振興につなげるためにも、地域の集落景観の維持・保全等計画を推進するとともにフクギの剪定や案内板等を整備し、地域自然を有効活用した集落づくりに取り組む。						
実施方法	■直接実施 □委託 □補助 □負担 □その他（ ）						
予算額・執行額 【単位：千円】 （「交付金」＋「市町村負担」ベース）			25年度	25年度（繰越）	26年度	27年度	27年度（繰越）
	予算の状況	(a) 当初予算額	80,873	—	30,000	99,732	—
		(b) 予算現額	80,873	—	30,000	99,732	—
		(c) 増減額 (b-a)	0	—	0	0	—
		(d) 繰越額	0	30,523	0	0	84,049
		A. 計 (b+d)	80,873	30,523	30,000	99,732	84,049
	B. 執行済額		50,350	30,500	23,200	14,568	81,163
	うち交付金充当額		40,280	24,400	18,576	11,655	64,886
	次年度繰越額		30,523	0	0	84,049	0
	執行率（％）(B/A)		62.3%	99.9%	77.3%	14.6%	96.6%
予算の状況の説明		不用額2,886千円については、入札残及び地域協議を行ったことで生じた数量減などによるものである。					
活動目標（指標）及び達成状況	H27活動目標（指標）		達成状況				
			27年度	28年度	29年度	30年度	
	フクギ集落の排水舗装・案内板等の整備工事	目標	フクギ集落の排水、舗装・案内板等の工事実施				
		実績	フクギ集落の環境整備・案内板等の整備完了				
		目標					
		実績					
達成状況説明	当初計画では、集落内の排水及び舗装工事を予定していたが、集落内環境整備工事（フクギの剪定）を実施していく中で、地域住民の反響が大きく、新たに環境整備（フクギ剪定）を要望する箇所が増えたことから最優先と判断し、経費変更により排水及び舗装工事を見送った。 当該環境整備及び案内板等の整備した事によってフクギ集落を訪れる観光客等への情報提供が図られた。						
成果目標（指標）及び進捗状況	H27成果目標（指標）		基準値（年度）	27年度	28年度	29年度	目標値（年度）
	地域に訪れる観光客の安全・安心（剪定及び散策道改修による歩行者の安全確保）及び地域住民の定住環境改善（フクギ剪定による倒木等の危険性除去や日照確保）に寄与する。	目標		観光客の安全・安心及び地域住民の定住環境改善の実施			
		実績		観光客の安全・安心及び地域住民の定住環境改善の完了			
		目標					
		実績					
	進捗状況説明	地域と協議を行い観光客や住民に配慮された整備を行い、観光客の安全・安心及び地域住民の定住環境改善を図ることができた。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	本地域(備瀬・新里)において、施設整備後には定期的な維持管理が必要となることから、地域住民の協力が課題となっている。	地域との協議を重ねて整備を進めているが、フクギの生育により将来に向けてフクギの剪定など、維持管理についてさらなる地域住民の理解と協力を得る必要がある。
今後の取り組み方針		
今後は、観光客への案内板活用や地域住民との協議を重ね、維持管理を考慮した整備などに取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
本部町 95,731千円 工事請負費 95,731千円 有限会社 幸和建設 41,256千円 有限会社 辰雄組 39,852千円 本部造園 株式会社 12,895千円 本部造園 株式会社 1,728千円 うち、54千円は町単独経費 本部町フクギ集落内案内板設置工事(1工区) 本部町フクギ集落内案内板設置工事(2工区) フクギ集落内環境整備工事(1工区) フクギ集落内環境整備工事(2工区) <table> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> <tr> <td>95,731</td><td>95,731</td><td>76,541</td><td>19,190</td><td>0</td></tr> </table>					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	95,731	95,731	76,541	19,190	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
95,731	95,731	76,541	19,190	0										
資金 使途の 流れ、 検 評 価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○工事の業者選定は指名競争入札により実施しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模については、適正な規模であったと考えている。 ○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。												
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。												
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	本部町							
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】								
事業番号・事業名	1-⑧		伝統興行観光化事業		沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(2)-ウ		
担当部課名	建設課		事業実施(予定)年度	平成25～28年度	沖縄振興基本方針該当箇所	観光客の受入体制整備		
事業内容	日本一早い桜祭りとして有名な八重岳には毎年多くの観光客が訪れるが、今後も本部町の主要観光拠点としてアピールしていくためには、観光客に配慮した拠点整備が必要である。本事業において排水路整備を行うことは、法面崩壊と桜(緋寒桜)の倒木防止になり観光資源の保全と観光客の安全確保が図られる。							
実施方法	■直接実施 ■委託 □補助 □負担 □その他()							
予算額・執行額【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			25年度	26年度	26年度(繰越)	27年度	27年度(繰越)	
	予算の状況	(a)当初予算額	10,000	95,224	—	112,249	—	
		(b)予算現額	10,000	98,172	—	112,249	—	
		(c)増減額(b-a)	0	2,948	—	0	—	
		(d)繰越額	—	0	49,814		109,970	
		A.計(b+d)	10,000	98,172	49,814	112,249	109,970	
	B.執行済額		9,660	48,340	49,509	2,177	60,979	
	うち交付金充当額		7,728	38,672	39,607	1,741	48,382	
	次年度繰越額		0	49,814	—	109,970	—	
	執行率(%) (B/A)		96.6%	49.2%	99.4%	1.9%	55%	
予算の状況の説明		当初予定していた工事費及び用地費の予算額に達算があったため48,991千円の不用が生じたが、事業に必要な予算分については執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)			達成状況				
				27年度	28年度	29年度	30年度	
	排水工事の実施 L = 300m 広場整備工事の実施 A = 6,000m2 用地測量及び用地取得 A = 4,348m2	目標	排水工事 L=300m 広場整備工事 A=6,000m2 用地測量及び用地取得 A=4,348m2	()	()	()	()	
		実績	排水工事 L=202m 広場整備工事 A=6,400m2 用地測量及び用地取得 A=5,109m2					
		目標	()	()	()	()		
		実績						
	達成状況説明	・排水路整備については、地権者間の相続問題が未解決箇所が判明したため、計画法線の再検討が必要となった。結果、本年度整備予定延長から数量を減とし相続問題箇所を避けた事により工事の遅延等が解消され202mの整備が出来た。 ・広場整備工事に至っては、観光拠点広場として必要な整備面積を確保する事が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)			基準値(年度)	27年度	28年度	29年度	目標値()
	排水路及び広場を整備し、法面崩壊や桜の倒木防止等を図り、観光客の安全を確保する。	目標	()	(桜の倒木防止) 等を図り、観光客の安全を確保する。	()	()	()	()
		実績		排水路及び広場の整備により法面崩壊や桜の倒木防止、更には観光客の安全確保が図られた。				
		目標	()	()	()	()	()	
		実績						
	進捗状況説明	・八重岳山頂付近から下流側親水性護岸工事までの間の排水路整備(石積排水路)が完了したことで、土留め効果による法面崩壊の危険性除去及び桜の倒木防止が可能になった事から観光客の安全確保も図られた。 ・新たな広場整備について、散策路・東屋・防護柵等の施設整備が完了した。						

取組の検証	推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化）	改善余地の検証（効率の更なる向上の視点）
	・親水性護岸工事における地権者が多数いたため、年度内においての売買契約完了が出来なかった。 ・親水性護岸工事箇所に着している道路は地域住民の生活道路となっているため切土工事を行う際には、細心の注意確保が求められている。	・親水性護岸工事における地権者が多数いたため、年度内において全ての売買契約完了が出来なかったが、施工同意については全員の同意が得られた。今後の用地取得については、町単独費を活用し早期用地買収を行う。 ・法面の切土においては、土質調査等を行い崩壊等の検討も考慮しつつ重機施工においては、細心の注意をもって工事を行う。
今後の取り組み方針		
・早期に用地取得することで下流部の親水性護岸整備の促進を図り、新たな観光拠点施設としての活用に向け取り組む。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)								
本部町 63,156千円 共済費 201千円 賃金 1,327千円 役務費 172千円 委託料 21,315千円 工事請負費 32,378千円 公有財産購入費 7,763千円 賃金職員(1名) 201千円 臨時職員(1名) 1,327千円 株式会社 沖縄不動産総合鑑定所 151千円 沖縄県 21千円 一般財団法人 公共用地補償機構 20,818千円 株式会社 沖縄不動産総合鑑定所 497千円 有限会社 三秀土木 9,698千円 有限会社 松建工業 22,680千円 契約 10件 7,763千円				総事業費	交付対象 事業費	交付金 充当額	市町村 負担金	交付対象 外経費
				63,156	63,156	50,123	13,033	0
				賃金職員保険料1名				
				臨時任用職員1名				
				不動産鑑定手数料				
				建築確認申請手数料 完了検査申請手数料				
				八重岳観光拠点整備事業 用地補償総合支援業務委託				
				画地評価格算定業務委託				
				八重岳線排水路整備工事				
				八重岳観光拠点整備工事 (広場整備)				
				排水路整備(設置)に必要な土地の購 入				
資金 使途の 流れ、 費目・ 点検 評価	評価	点 検 項 目		評価に関する説明				
	○	支出先の選定方法は妥当か。		○業者選定はプロポーザル、指名競争入札及び町契約規則による随意契約により実施しており、妥当であったと考えている。				
	△	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。		○予算規模については、当初計画時点で事業に必要な予算を超えた積み上げになっていた。用地鑑定等により必要な額が確定した時点で事業費の変更をすべきであった。				
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。		○費目・使途について事業目的達成の観点から必要なものなのか等については額の確定時において検査、確認しており、適正であった。				
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。						

市町村名	本部町						
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	1-⑩	伝統興行観光化事業			沖縄21世紀ビジョン 基本計画該当箇所	第5章-3-(1)-イ	
担当部署名	産業振興課	事業実施 (予定)年度	平成26～29年度		沖縄振興基本方針 該当箇所	圏域の特色を生かした 産業の振興	
事業内容	本町の有する水産資源の魅力に触れる体験型観光プログラムの構築を図るため、中層型浮漁礁等を活用した実証試験を行う。観光協会、漁業協同組合と連携し受入体制の強化を図り、「ここでしか味わえない」をキャッチフレーズに観光地としてのブランド力を向上させる。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)		26年度	27年度	27年度(繰越)	28年度	29年度	
	予算 の 状 況	(a) 当初予算額	31,742	14,200	0		
		(b) 予算現額	27,393	14,200	0		
		(c) 増減額(b-a)	▲ 4,349	0	0		
		(d) 繰越額	0	0	3,240		
		A. 計(b+d)	27,393	14,200	3,240		
	B. 執行済額		27,393	10,907	3,176		
	うち交付金充当額		21,914	8,725	2,541		
	次年度繰越額		0	3,240	0		
	執行率(%) (B/A)		100.0%	77.1%	96.6%		
予算の状況の説明		関係団体との調整に時間を要したため工事費の一部を繰り越すこととなった。					
活動目標 (指標) 及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
			26年度	27年度	28年度	29年度	
	観光漁業基盤整備 ・観光漁業用生簀の設置2基	目 標	—	(生簀設置2基)	()	()	
		実 績	—	生簀設置2基			
	観光プログラム実証業務 ・体験型観光の実施及びデータ収集	目 標	(計画及び実証試験の実施)	(実証試験の実施)	()	()	
		実 績	事業全体計画の策定 実証試験の実施	実証試験の実施			
達成状況説明	観光漁業用生簀を2基設置し体験型観光の実施に向けた基盤整備を行った。 本町の有する水産資源を活かした観光プログラムの確立に向け各種体験メニューの実施を行った。 中層型浮漁礁を用いた観光体験ツアーの実施や本町で生産されている養殖クロマグロの町内消費拡大に向けた取組を行った。						
成果目標 (指標) 及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (年度)	27年度	28年度	29年度	目標値 (年度)
	町内水産資源を活かした体験型観光の実施を行い、観光プログラムの構築に向けデータ収集を行う。	目 標	()	(生簀2基設置 実証試験実施)	()	()	()
		実 績		生簀2基設置 実証試験実施			
		目 標	()	()	()	()	()
		実 績					
	進捗状況説明	・体験型観光のメニューの一つとして魚礁を活用した釣り体験メニューの構築に取り組んでいる。今年度は受け入れ態勢の構築に向けた取組を主に行った。 ・養殖マグロ等、町の観光商材として期待される水産物の安定供給及び町内消費の拡大に向け、町内小規模事業所(主に居酒屋)を中心に取扱い強化に向けた取組を行った。認知度不足、対外的なPR不足が課題として残ったため次年度の重点的な取組み内容とする。 ・生簀の設置が完了したことにより活魚販売等を行う環境が整った。グルクン等を常時ストックすることで、活魚の安定供給が今後可能となる。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	パヤオ釣り体験や養殖クロマグロの町内流通等は取組みとして日が浅いため町外へのPRが不足している。	漁業協同組合と観光協会の連携をさらに活発化させ、水産資源の魅力を広く町外へPR出来るように努める。
今後の取り組み方針		
町内水産資源を活かした体験型観光の実施を継続的にを行い、どのようなメニューが本町にとって適当なものであるかを模索・検討していく。行った体験型観光からはデータ収集を行い今後の取り組みへの改善策等を検討していく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)														
<table border="1"> <thead> <tr> <th>総事業費</th><th>交付対象事業費</th><th>交付金充当額</th><th>市町村負担金</th><th>交付対象外経費</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>14,083</td><td>14,083</td><td>11,266</td><td>2,817</td><td>0</td></tr> </tbody> </table> 本部町 14,083千円 委託料 8,791千円 (株)ホープ設計 491千円 本部漁業協同組合 8,300千円 工事請負費 5,292千円 (有)良三組 5,292千円 生簀設計業務 観光プログラム実証業務 生簀製作工事					総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費	14,083	14,083	11,266	2,817	0
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費										
14,083	14,083	11,266	2,817	0										
資金の 使途の 流れ、 点検 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明											
○	○	支出先の選定方法は妥当か。	○指名競争入札及び町契約規則に基づき随意契約を行っており妥当であったと考えている。											
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	○予算規模について事業内容と見合っており適正である。											
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	○費目、使途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。											
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。												

市町村名	本部町						
平成27年度(繰越)沖縄振興特別推進交付金事業(市町村分)検証シート【公表用】							
事業番号・事業名	5-①	赤土流出防止検討調査事業			沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-1-(1)-イ	
担当部課名	企画政策課	事業実施(予定)年度	平成24~30年度		沖縄振興基本方針該当箇所	陸域・水辺環境の保全	
事業内容	本町をはじめ沖縄県内で以前から問題とされてきている海洋への土壌流出について、本町内での発生源調査や、その発生源に対する土壌面の被覆、ほ場等周辺へのグリーンベルトの植栽配置及び流出源となる河川堆積土砂の浚渫、フィルター材の設置など、流出面から河川へ至る線への対策を実施することで赤土の流出抑制を図る。						
実施方法	☒ 直接実施 ☒ 委託 ☐ 補助 ☐ 負担 ☐ その他 ()						
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)			24年度	25年度	26年度	27年度	27年度(繰越)
	予算の状況	(a) 当初予算額	5,300	19,858	20,000	20,000	—
		(b) 予算現額	5,300	19,858	20,000	15,929	—
		(c) 増減額(b-a)	0	0	0	▲ 4,071	—
		(d) 繰越額	0	0	0	0	3,877
		A. 計(b+d)	5,300	19,858	20,000	15,929	3,877
	B. 執行済額		5,300	18,593	19,932	9,000	1,941
	うち交付金充当額		4,240	14,874	15,945	7,200	1,553
	次年度繰越額		0	0	0	3,877	0
	執行率(%) (B/A)		100.0%	93.6%	99.7%	56.5%	50%
予算の状況の説明		整備予定箇所の地権者から代替地を求められたが条件に合致する代替地を提示できず、合意にいたらなかったため不調となり、計画路線変更の必要が生じたため事業繰越及び不用額が生じた。					
活動目標(指標)及び達成状況	H27活動目標(指標)		達成状況				
	用地取得(7筆・394㎡)	目 標	(—)	(—)	(用地取得 7筆・394㎡)	()	
		実 績	—	—	用地取得 4筆・609㎡		
	流出対策工事	目 標	(流出対策工事 3箇所)	(流出対策工事 1箇所)	(流出対策工事 1箇所)	()	
		実 績	工事未達成	工事未達成	工事1箇所完了		
	達成状況説明	流出対策工事の実施については、用地交渉の結果ルート変更が生じ、当初活動目標より、多く用地取得する結果となったが、予定通り管理用道路用地の取得することができた。					
成果目標(指標)及び進捗状況	H27成果目標(指標)		基準値 (23年度)	25年度	26年度	27年度	目標値 (年度)
	用地取得(7筆・394㎡)の完了	目 標	(—)	(—)	(—)	(7筆・394㎡)	(—)
		実 績		—	—	4筆・609㎡	
	流出対策工事:調査済流域1箇所	目 標	(—)	(3箇所)	(1箇所)	(1箇所)	(流出防止未 実施裸地率 5%)
		実 績		0箇所	0箇所	1箇所	
	進捗状況説明	赤土等流出が発生すると考えられる河川の浚渫工事を実施し、管理用道路用地の取得も完了した。					

取組の検証	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	赤土等の流出が流域ごとにどのような場所で発生するのか調査を行ってきたが、流出源が主に私有地となっており、所有者に赤土流出防止の周知する必要がある。	流出源となる畑地等の地権者の協力を得るために、環境学習等の啓蒙普及活動を引き続き実施していく必要がある。
今後の取り組み方針		
これまでに実施してきた流域ごとの流出源調査結果に基づき、流出対策が必要な地点の優先度を勘案して、順次、赤土流出対策を講じていく。 今後は赤土流出源の一つである砂防ダムの浚渫に取り組んでいく。		

資金の流れ (資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)				
本部町 10,942千円 委託料 972千円 土地家屋調査士島袋徹志事務所 972千円 分筆登記申請委託 工事請負費 8,802千円 株式会社 央章産業 8,802千円 赤土流出防止工事 (長田川浚渫) 公有財産購入費 835千円 個人 3名 835千円 管理用道路用地 事務費 333千円 県外旅費 消耗品費 不動産鑑定手数料				
総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
10,942	10,942	8,754	2,188	0
評価	点検項目	評価に関する説明		
資金の 流れ、 費目・ 点検 評価	○ 支出先の選定方法は妥当か。	○委託事業者は入札及び、地域組織、実績、知識等を有しているものを選定したため妥当であったと考えている。 ○予算規模については、用地取得の不調により道路計画線の変更を余儀なくされ4,988千円の不用額が生じたが、当初事業費の規模は適正であった。 ○費目・用途については事業目的達成の観点から必要性を、事業費確定時において支出等に関する書類により確認し、その結果適正であった。		
	○ 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。			
	- 受益者との負担関係は妥当であるか。			
	○ 費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。			